

加西の方言

北播地方のことばは、概して荒くきたないとよくいわれる。その中でも加西のことばは、特に荒いといわれる。しかし、加西のことばが北播の他地方のことばと比べて特別に粗野であるとは思われない。「そうけ」「そうこ」「ほんまこ」「ほんまや!」「あん!」「なんどいや」などは、北播の人たちがほとんど使っておりかわりはない。

ただ、「ドアホ」「アホタレ」「カチアゲタル」「ドツイタル」「なにぬかしケツカル」「やってコマイタロ」などの卑語がかなり多く使われ、加西の人たちの使用頻度が、北播の地方より高かったことがその原因でないかと思われる。

加西で使われていた方言の中から、特に加西の特色とされることばに次のようなものがある。

1、ナシタマア

昔の俗謡に「京の「ねもし」に大阪の「なもし」酒見北条の「ナシタマア」というのがあったように、加西を中心に極端に多く使われるのが「ナシタマア」である。

この「ナシタマア」は、普通驚いたときに発する感動詞であるが、使い方によって実に色々な意味にもなっている。「なんとまあ」が変わったと思われるが、センテンスの前か後にくるときが多い。

・前にくるとき

ナシタマア。こんな所から水が出るなんて。

ナシタマア。あんなじょうぶなものがつぶれるなんて。

ナシタマア。可愛らしい赤ちゃんやこと。

ナシタマア。綺麗な人やないか。

ナシタマア。情けないことをいう人やなあ。

ナシタマア。あんたもそう思とってんけ。

・後にくるとき

これがハメの子か。ナシタマアー。

テスト百点やったん？ ナシタマアー。

もうお休みでっか。ナシタマアー。

それでエエと思とんのか。ナシタマアー。

2、ヘテ

加西をはじめ北播地方で使用頻度の高いことばに「ヘテ」がある。「ヘテ」は、そして・それで・それかななどの意と同じで、「あゝ、もしもし、エッ、ナシタマア、ヘテ、なんでっか、ふんふん…」のように使

(思いもしなかった)

(“ ”)

(本当にそうだ)

(“ ”)

(心外なことをいう)

(“ ”)

(全く知らなかった)

(本当ですか)

(それはそれは)

(馬鹿な奴だ)

われる接続詞であるが、時には「ヘテ、どないや」「ヘテ、なんやいな」などのように、接頭語のような役割をもつこともある。

3、ワッサ

このことばは、加西以外では殆ど使われていない。「わしら」が変わったと思われるが、「ワッサラ」と言う場合もあり、このときの「ワッサ」は「わし」(私)となる。

4、マン

このことばも、北播でも加西以外では殆ど使われていない。そして、「ワッサ」と同じく加西でも北部地区に多くみられることばである。

「いったげマン」は「げ」を省略し、「いったマン」ともなる。

言ったげマン 言ったマン (言ってあげましょう)

したげマン したマン (してあげましょう)

5、そうケ・ほんまケ

この「ケことば」も、北播地方では加西が最も多くつかうことばである。

「そうケ」「ほんまケ」は、会話の中に常に相槌をうつ形で出てくる。「そうこ」「ほんまこ」よりも敬意をふくむことばといわれる。

6、モエル・アダケル

加西をはじめ北播地方でつか使われていることばであるが、他の地方では意味の通じないことばの一つに「モエル」「アダケル」がある。

「モエル」は、「ふえる」ことであり、「モエとる」は「ふえとる」のことである。

川の水がゴツツウモエとる (川の水がたくさんふえていいる)

キンノより水がモエとらへん (昨日より水がふえてない)

「アダケル」は「落ちる」ことをいうが、北播地方では「ザ行」と「ダ行」を混同するため、意味が通じないだけでなく、聞いた人に誤解されることがある。

「おまえがアダケタゆうとったん、あれほんまこー。」

「あなたが落ちたといっていたのは、本当ですか」と言っているのだが、聞く側が「アダケル」を「アザケル」(嘲る)と聞いたために、「あなたが嘲るといっていたが、本当か」と解し、たいへんな誤解をまねくことになる。

加西の方言は非常に多いが、その一部を次にあげる。

アイグイする	間食する。	イッシヨコタ	まぜる。
アガット	座敷への上り口。	イツツキ	いつも。
アズル	あせる。もてあます。	イノク	動く。
アセボ	汗も。	ウトテマウ	倒れてしまう。
アタシット	ひじょうに。しんどい。	ウチネ	私の家。
アダケル	落ちる。	エンゲ	縁先。
アダベタ	地面。	オイヤカ	閑静な。
アタンする	仕返しする。	オシヨシナ	少し。わずかな。
アホのコッチョ	あほの極。大馬鹿。	オセラシイ	大人っぽい。
アリコマチ	全部。	オトロシ	おそろしい。
アンダ	あぐら。	オモツソイ	面白い。
イカタル	あたる。じゃまになる。	カゲラ	木陰。陽かげ。
イケル	埋める。	カダ	におい。
		カタゲル	肩に背負う。
		カツケル	投げる。投げ当てる。

カラケツ	空になる。何も無い。	コンネ	おたく。ここの家。
キズツナエ	気がいる。堅苦しい。	サカチン	反対。
コビツシヨナエに	きつく。ひどく。	サノボリ	田植終わりの休み。
キメテ	急いで。がんばって。	サンコにする	無駄にする。ちらかす。
ジョウサン	たくさん。	ジゲ	町内。
キンノ	昨日。	シゴイ	繁茂する。
キンモン	着物。	シャチコバル	緊張する。
クソサンコ	悪くのものしる。	ジュルイ	ぬかるみ。
クツナ	蛇。青大将。	ジューヨーに	自由に。
クラガス	なぐる。	ジョーシキ	いつも。何度も。
クレクレかわる	次々にかわること。	ジョジョ	どじょう。
ケンド	けれど。しかし。	ジョリ	草履。
コガタン	小刀。	ズットコセ	いつも。長い間。
ゴットハン	ごちそうさまでした。	スッポコダニ	山奥。
ゴモクタ	ちり。くず。	スマンダ	隅の方。

セブル	せびる。	デーと走る	勢いよく走る。
セヤサケン	そうだから。さかいに。	テコバチヤ	天罰や。
セングリ	くりかえし。何度も。	ドクシヨイ	非情な。酷く。
センドマ	久しく。長く。	ドナエコナエ	どうこう。
ソーダッシヤロ	そうですやる。	ナガタン	ほうちよう。菜刀。
ソッソな	そ知らぬ。	ナンドコやない	それどころではない。
ソヤケド	そうだけれども。	ナンドリ	ゆったり。おおらか。
タイテやない	大変なことだ。	ニシクル	ひつつける。
ダッチもない	つまらない。しょうもない。	ネキ	側。脇。近く。
タナモト	台所。	ネツカラ	一向に。
タボトク	貯めておく。	ノーなる	無くなる。
チョイチバン	一番はじめに。	ノシガテに	自然に。
ツクナム	しゃがむ。	ハダカル	はさまる。
ツブレ	つるべ。	ビロクする	破れる。
デーエロ	きつく。厳しく。	ヘシコム	凹む。へっこむ。

ヘタテ そうだけれども。
 ヘチ ふち。縁。
 ヘテカラ それから。
 ヘベタイ ひらたい。
 ヘラヘット・ヘラヘト しきりに。盛りだくさん。
 ホデル ほじくる。
 ホナ では。それじゃ。
 ホメク むしむしする。
 マイドウチ この間。先程。
 マタイ 鈍い。下手。
 マドウ 弁償する。
 マドロシ 遅い。にぶい。じゃまくさい。
 マブル まぜる。
 ムクル めくる。めくれる。
 メグ こわす。

モットカス 持たせる。
 モミナイ あじない。味気ない。
 ヤグサイ こげくさい。
 ヤクタイ 散らかす。さんこ。
 ヤロコイ 柔らかい。
 ヨコスツポ 横面。
 ヨツテコツテ 寄ってたかって。

(加西郡誌・はりま方言風土記・丸山三郎著より)